

©Hermès



HERMÈS ×
KYOTO
MARBLE

時を超えて愛される製品を作り続ける「エルメス」は、世界で唯一のプリント技法を持つ「京都マール」とコラボレーション。色付けた澱粉ペーストを巧みに組み合わせ、麻布にマール模様をプリントする独自の技法は、野瀬家が代々営んできた「京都マール」によって守り続けられてきたもの。京都の工房でプリントが施され、縁かがりなどの仕上げはフランスの「エルメス」の工房で行う。メゾンの美意識と日本に唯一残った特別技法が結実したプロダクトだ。写真はロベール・ダレの〈野生馬〉のデザインを、マールプリントの伝統技術を用いて巧みに表現した1枚。スカーフカレ 90(野生馬) マールシルク ¥216,700 (エルメス/エルメスジャパン)

©Gucci



GUCCI × HOSOO

「グッチ」と京都・西陣織の老舗「HOSOO」による協働は、伝統と革新を結ぶ対話として2022年に始動。受け継がれてきた織の技術を現代の感性で再解釈し、独自のテキスタイルを生み出してきた。第4章となるコレクションでは、「HOSOO」の技法を用いて、フローラ モチーフとGG/ハターを融合した作品が登場。銀箔を織り込んだ多層構造が奥行きをもたらし、優美で立体的な表情を実現。西陣織の可能性をさらに広げている。バッググッチ バンパー 1947 [W21×H15×D7cm] ¥831,600(グッチ/グッチ クライアントサービス)

The New Craft of Luxury

伝統工芸とラグジュアリーの未来

日本の伝統工芸は今、世界のラグジュアリーと響き合いながら、新たな価値を生み出している。手仕事の美と歴史が、現代の感性と結びつくことで、その存在意義はどのように変化していくのか、その可能性に改めて注目する。

伝統工芸の可能性

「下請け」から「ともに創るパートナー」へ

中野香織 文化史家

「エルメス」のカレ(スカーフ)に、「マールシルク」と呼ばれるシリーズがある。

京都の小さな工房が守り続けてきた、世界でも唯一とされる染色技法によるものだ。メゾンが長年探求していた理想的なマールプリントは、実はこの工房の中に存在していた。両者の協働は2015年頃に始まり、10年以上にわたって続いている。カレやツイリーとして多くのシーズンに登場し、近年では一部のバッグにも用いられるなど展開が広がり、「エルメス」は一貫して

「マール」という名前を冠し続けている。

かつて、こうした産地との関係は、ごく限られたメゾンの例外的な慧眼にすぎなかった。だが今、それはラグジュアリー産業全体の潮流になりつつある。

「グッチ」と京都西陣織の老舗「HOSOO」の協働。「ディオール」の「京都コレクション」における龍村美術織物や京友禅の染匠たちとの仕事。日本の伝統工芸は、いま世界のラグジュアリーの舞台に、かつてない頻度で登場している。

背景にあるのは、ラグジュアリーの価値の置きどころそのものの変化である。2010年代にはまだ大きなロゴや、誰の目にもわかるステータスが重視されていた。しかし現在、人々が問い始めているのは別のことである。

どんな素材を、どこの誰が、どんな技でつくったのか。土地に根ざした物語や、手仕事の履歴が、価値そのものとして読み取られるようになっていく。

いわゆる「クワイエット・ラグジュアリー」とも連動するこの流れは、環境配慮や持続可能性を求める時代の要請とも重なり、ラグジュアリーの方向を大きく転換させている。そしてこの問いに最も明確な答えを示せるのが、長い年月をかけて技術を受け継いできた伝統工芸の世界なのである。

この変化を象徴する出来事がある。2022年5月、LVMHモエ ヘネシー・ルイ ヴィトンのバルナール・アルノー会長が来日し、当時の官房長官だった松野博一氏を表敬訪問した。その面会では、傘下ブランドの商品に日本の素材の産地名を明記すること、日本の中小企業や職人との連携をさらに発展させること、そして若手アーティストや工芸家とのコラボレーションを推進することなどについて話し合われた。

こうした議題が、世界最大のラグジュアリー企業のトップと一國の政府で話し合われること自体が、産業構造の変化を如実に示している。また、同年末には、卓越した職人技の継承と発展を支援するLVMH メティエ ダールの世界唯一の支部が日本に設立されたことも象徴的だ。

日本の伝統工芸は、グローバル・ラグジュアリーの文脈において、匿名の下請けから名前を持つ共創パートナーへと、その立ち位置を変え始めたのだ。もちろん、この変化は一方向ではない。(P.23へ続く)

©Azusa Ymaguchi



©Azusa Ymaguchi



©Mat Abadi



LVMH MÉTIERS D'ART × KUROKI

「LVMH メティエ ダール」は、世界各地の卓越した職人技とマニファクチャーを結集し、素材開発と技術継承を推進するLVMHグループの専門組織。その一端として、2023年に世界屈指のデニム生産地として知られる岡山県のデニム生地マニファクチャー「KUROKI(クロキ)」と日本初のパートナーシップを締結した。さらに同拠点では、アーティストが一定期間滞在し職人と協働して創作を行うプログラム「アーティスト・イン・レジデンス」も昨年行われ、米澤穂による作品「光の囀」を発表(写真左、中)。職人技と現代アートとの融合が新たな創造を切り開いている。また「LVMH メティエ ダール」は京都の西陣織を代表する老舗「HOSOO」とも連携を結び、日本の伝統技術との連携を一層深めている

乙女座Virgo 8月23日-9月22日 ★日常のルーティンから少し抜け出して、視座を高く新しい世界に触れていくことが活性化に。5月19日以降は大胆な行動が新しい知識を引き寄せ、好奇心を刺激してくれる予感。



SUZUSAN

名古屋・有松は、江戸時代から続く古い街並みとともに、400年以上の歴史を誇る有松鳴海絞りの産地として知られる。「suzusan(スズサン)」はその伝統を継ぎ、「鈴三商店」をルーツに発展。五代目・村瀬弘行氏はドイツでブランド「suzusan」を創業し、現地でのデザインと有松での生産を融合。カシミアやシルクなど上質素材に絞りを施し、衣服からホームコレクションまで世界29カ国で展開を行う。海外ラグジュアリーブランドとの提携、教育や産地連携も進めながら、伝統を現代のライフスタイルへと昇華している。 <https://suzusan-shibori.com>



NS by NOUSAKU

1916年、富山県高岡市を拠点に創業した「能作」は、高岡銅器の伝統を継承しつつ、世界初の錫100パーセント純物を確立。テールウェアやインテリアを通じてその魅力を発信してきた。新たに始動した「NS by NOUSAKU」は、軽やかな輝きの特性を生かしたジュエリーブランド。体温に馴染むやわらかな質感と上品な輝き、縁起の良い素材としての背景を大切にしながら、銅と金を融合した新素材で、その可能性をさらに広げている。 <https://www.ns-by-nousaku.com>

ゴではなくものづくりの背景が問われるようになったことで、ブランドはその価値を支える「日本のクラフト」を求めようになった。一方で、伝統工芸の側にとっても、こうした文脈に関わることが生き残り新しい表現の場を開く一つの選択肢となっている。

その象徴的な例が、有松鳴海絞りのブランド「suzusan」である。400年以上の歴史を持つ有松鳴海絞りの技法を背景に、鈴三商店五代目の村瀬弘行氏がドイツで立ち上げたブランドだ。伝統技法を現代のプロダクトへと転換し、「ディオール」のオートクチュールに生地を提供。カシミアなどの高級素材やインテリアにも展開し、現在は29カ国で販売されている。

伝統工芸がラグジュアリーの文脈を獲得することは、地域経済にも新しい回路を開く。

富山県高岡市の鋳物メーカー「能作」はその好例で

ある。400年続く高岡銅器の技術を基盤に、錫100パーセントの「曲がる器」で国内外に知られる存在となった。

かつて閉屋の下請けに徹していた同社を、自社ブランドへと転換させたのが現会長の能作克治氏である。若い頃、工場見学に来た母親が子どもに「勉強しないとこういう仕事にしか就職できない」と言うのを耳にし、職人の地位を変えなければならぬと決意したという。

2017年には工場見学や体験ができる新本社を開設し、年間13万人以上が訪れる産業観光の拠点へと成長させた。2023年には長女の能作千春氏が五代目社長に就任し、「錫婚式」を提案、ウェディング分野やジュエリー分野へと新たな事業を展開している。

「suzusan」もまた、有松の直営施設で絞り体験を提供し、海外からの来訪者を産地へ呼び込んでいる。

ラグジュアリーホテルや高級観光列車が伝統工芸をキュレーションする動きも各地に広がった。

工芸は「買うもの」から「訪ねるもの」へ、さらに「体験するもの」へと広がり、産地ツーリズムという新しい経済圏を形づくりつつある。

もちろん、多くの産地で職人の高齢化と後継者不足は深刻である。国際的な評価の高まりと人材基盤の脆さとの緊張は、いまだ解消されていない。

それでも現場で取材を重ねていると、未来を見据えて伝統工芸の形を更新しようとする若い担い手たちには、いくつか共通した姿勢があるように思えてくる。

第一に、外側の視点を持つこと。自分たちの価値は、近すぎると見えない。村瀬弘行氏はドイツという距離を置いた場所で有松鳴海絞りの美しさを再発見した。能作千春氏も、神戸のセレクトショップに並ぶ自社製品の魅力を上司から評価され、家業の可能性をあらためて実感したという。

第二に、文脈を翻訳する言語を持つこと。技術そのものを変える必要はない。だが、その意味を現代の市場や文化の言葉に翻訳できなければ、どれほど精緻な手仕事も世界には届かない。「エルメス」と「京都マープル」の10年は、一つの染色技法が国際的なラグジュアリーの言語へと翻訳されていく過程でもあった。

そして第三に、完璧な条件を待たないこと。構想の大きさよりも、一歩を踏み出す意志が道を開く。

伝統工芸の価値は、ただ「発見される」のを待っているわけではない。価値とは、つくるものだ。そしてそれは、かつてこれからも、意志をもって手を動かす「人」から始まる。

©TAMIYA RADEN



TAMIYA RADEN

海外ラグジュアリーブランドとのコラボレーションに近年力を注ぎ、中野香織氏も注目する「民谷螺鈿」。1300年以上続く織物の産地。京丹後にて工房を構え、1977年、丹後の織元・民谷勝一郎が「貝殻を織る」発想を実現。螺鈿と引き箔を融合し、貝殻を糸状にして帯に織り込む独自技術確立した。2006年からは、パリを拠点に海外へのアプローチもスタートし、海の煌めきを宿す織物を世界へ向けて発信している。(左)中国のクチュールデザイナー、グオ・ヘイとのコラボレーションで、螺鈿織生地を全面に使用したドレス (右)厚さ約1ミリまで削り出した貝殻を丁寧に切り出し、職人の手によって丹念に配置されていく工程 <https://tamiyraden.com>

再 蠍座 Scorpio 10月23日~11月21日★6月2日の満月では長い時間をかけて築いてきた関係のメンテナン스에最適な時期到来。無理に相手と合わせることなく、正確な自分で振る舞える距離感が関係性を良い形に整える秘訣。

The New Craft of Luxury ラグジュアリーホテルが 伝統工芸を キュレーション

近年、日本のラグジュアリーホテルも
伝統工芸の価値に改めて光を当て、
インテリアや建築、滞在体験へと再構築している。
土地の記憶と職人の手仕事を織り込み、
空間を美意識で形づくる潮流が
広がっている。

PALACE HOTEL TOKYO

滞在、食、体験で巡る
伝統工芸に触れる時間

「パレスホテル東京」では、館内のいたるところで日本の伝統工芸の美を
体験することができる。さまざまなおもてなしを通して、その美
意識が語られる。1.客室では南部鉄器や有田焼、越前漆器など日本の
伝統工芸品の茶器が揃えられ、その精緻な手仕事に触れられる。2.ア
クティビティとして、創業130年以上の老舗・日本橋の工房「蝋工房」
から講師を迎えた組紐体験を用意。3.1F ロビーラウンジ「ザパレスラウ
ンジ」では、石川県輪島市を拠点に活躍する輪島塗塗師の赤木明登氏
による漆器「Stones」でアフタヌーンティーが提供される。

パレスホテル東京
東京都千代田区丸の内1-1-1 tel: 03-3211-5211



ESPACIO 芸術と匠の技に 包まれる 至高のホテルステイ

日本に息づく文化・芸術を全面に打ち出し世界へ発信するホテルブランド「エスパシオ」。館内や客室はさ
まざまな作家たちの作品で彩られ、まさにアートミュージアムのような。1.「エスパシオ 箱根迎賓館 鱷鳳龜龍」の客室「宙」は、唐紙師・千田長右衛門による亀文様の唐紙で彩られた空間。長寿と吉祥を象徴する
意匠が穏やかな時を演出。2.「名古屋観光ホテル」には、名古屋染付染、有松絞り、尾張弘良、岐阜提
灯、伊賀くみひもといった伝統工芸の匠たちが手掛けた逸品を配した「匠コンセプトルーム」が登場。3.名
古屋城の目前に昨年オープンした話題を集めた「エスパシオ ナゴヤキャッスル」。約400点ものアートが彩る
贅を尽くしたインテリアに圧倒される館内。希少な工芸作品に囲まれながら非日常の世界へ

エスパシオ 箱根迎賓館 鱷鳳龜龍 神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下72 tel: 0460-87-9200
名古屋観光ホテル 愛知県名古屋市中区錦1-19-30 tel: 052-231-7711
エスパシオ ナゴヤキャッスル 愛知県名古屋市中区西区橋の口町3-19 tel: 052-521-2121

©OUJI OKAMOTO/LIONPHOTOSTUDIO(TOKYO)



CURATION HOTEL MOMOYAMA-GAEN

600㎡の大空間に広がる
アートと伝統工芸の響き

日本各地に残る歴史ある建築をリノベーションし、キュレーションの
力を発揮しながら、唯一無二のデザインを持つ一棟貸しサロンへと
再生している「キュレーションホテル」。その中の一ツ「桃山雅苑」は、
熱海、海と山に囲まれた600㎡の空間に、若手作家のアートをほ
ぼ、伝統工芸、大工による伝統の内装技法が全館にちりばめられた
宿。4つのゲストルームは国内外で活躍する4人のインテリアデザイ
ナーが手がけ、それぞれが薪能や茶の湯など異なるテーマにインス
パイアされている。1.琳派による岩群青が印象的な富士の屏風
(1800年作、ロンドンへの幕末流出品の買戻し)が飾られたLDKは
天井高4mの開放的な空間。2.深いブルーで統一されオーシャン
ビューのペナルームには、宮城県・気仙沼の藍染工房によるウォ
ールアートが目立つ。

キュレーションホテル 桃山雅苑
静岡県熱海市桃山町23-25 tel: 0557-86-5005

射手座 Sagittarius 11月22日~12月21日★新月が過ぎると日々のお金の使い方に意識が向く。生活の基礎を見直すことが解決するヒント。軽いストレッチなど朝の習慣をつくることで1日の流れが安定し、集中力も高まる暗示。